

7月 たんぽぽ組だより

日に日に日差しも強くなり、夏の訪れを感じる季節となりました。子どもたちは暑さに負けず、園庭で水や泥の感触を楽しんだり、少しずつ大きくなるカブの「こひめちゃん」の水やりを交替で行ったり元気いっぱいに過ごしています。植物や生き物への興味も高まり、植木鉢を持ち上げて競うようにダンゴムシを探したり、カブの葉についていた青虫がさなぎや蝶々へと姿を変えていく様子を興奮しながら観察していました。たくさんのかんことを経験し、吸収していく子どもたち。お家でもぜひこの年齢の子どもたちならではの目線や気づきを大切に、お子様との会話を楽しんでいただけたらと思います！

今月のわらい

- ・友達との関わりの中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを知る。
- ・夏の行事に楽しく参加する。

今月の歌

- ・たなばたさま
- ・うみ
- ・おーい、かばくん



七夕製作 ～ハサミに挑戦！～



今回の製作では、初めてハサミを使用しました。折りたたんだ折り紙を保育者と一緒に持ったハサミでちょきんと切り、破けないようにそっと広げると…星形の完成！ハサミを握っているときの真剣な表情が、星が出来上がった瞬間に笑顔に変わる様子が、子どもたちの感動を物語っており、「もっと、もっと！」と何度もハサミに挑戦してくれました。自分で切って作り上げたたくさんのかんを、今度は糊を使って画用紙に貼り付けると、見事な天の川になりました。織り姫と彦星の顔も描き上げた子どもたちの傑作、ぜひご覧になってくださいね。

子どものケンカ



先日の懇談会でも話題になった、子ども同士のケンカ。どこで止めたらいいのか、暴力的で…など様々な声が聞かれました。12人の子どもたちが一緒に生活するたんぽぽ組でも子ども同士のトラブルは毎日必ずどこかで発生します。今回はトラブルの際の園での対応をご紹介します、ご家庭での参考にいただければと思います。暴力に対してはまず、いけないことを端的に毅然と伝えます。そのうえで「○○したかったんだよね、じゃあこうしてみよう」とどうすれば良かったのかを伝えたり、大人が見本を見せたりします。暴力の被害を受けてしまった子に対しても「痛かったね。△△ちゃんは○○したかったんだって」と大人が相手の気持ちを代弁します。暴力はいけないことを理解している子がほとんどですが、突発的に、またどうしても自分の気持ちが相手に伝わらなかったときなどに手が出てしまうことが多いようです。思わず手を出してしまった後にはバツが悪そうにうつむき、自分なりに反省している姿も見られます。

暴力的な行動(攻撃性)の原因としては、欲求不満、衝動性のコントロールが苦手といったことが考えられます。自分の気持ちをうまく伝えられず不満がたまり、暴力的な行動にでてしまう。その結果、怒られる、そしてまた欲求不満に…という悪循環に陥っているケースもあります。もちろんいけないことを「いけない」と伝えることは大事ですが、怒られる頻度が高くなるほど子どもは自信をなくし、衝動をコントロールする力も弱くなってしまいます。ケンカの終着点は、相手に謝ることで反省させることでもありません。暴力的な行動の裏にどんな気持ちを抱えているのか、大人が考え寄り添うことが大事だと考えます。

(参考文献:「育てにくい子」と感じたときに読む本 児童精神科医 佐々木正美著 主婦の友社)